

# 桑名文化協

平成20年3月15日  
第23号  
桑名市文化協会  
桑名市中央町2丁目37  
TEL 24-1361  
<http://bunkyo-kuwana.jp/>

## 新春を寿ぐ六華苑祭

— 第四回新春六華苑祭を終えて —

音楽部門 神谷美夏

四年間の留学を終え日本に帰国したすぐ、知人と六華苑を訪れた時、

「こんな素敵な所で弾いてみたいなあ。」と思ったのが、この新春六華苑祭で実現しました。

思った通り、ヴァイオリンと建物の柱や床が共鳴し合い、すばらしい響きとなりました。

暖冬といわれる今年の冬にめずらしく底冷えする中、たくさんのお客様に来ていただきました。

留学中、日本人の環境に対するすばやい適応性、そして異なった文化をいかに自分達の文化と融合させるかということに優れていることを実感しましたが、この六華苑はまさに表しているのではないのでしょうか。和館では邦楽を、離



▲音楽の祭典でのヴァイオリン演奏

れ屋ではお茶会を、そして洋館ではコーラスや弦楽器の響き…。これら全てが溶け込め合えるのは、六華苑ならではの思いです。この六華苑祭もまだまだ市民の皆様知られていないように思います。(実際、私も出演するにあたり



▲朗読「60歳のラブレター」

て知りました。)普段めったに催しなど行われなだけに、この新春六華苑祭を機会に、是非多くの方々に足を運んでいただけたらと思います。



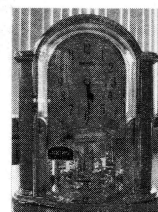
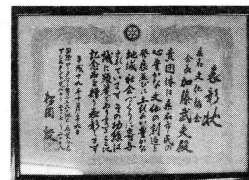
▶邦楽の集い

### 桑名市文化協会の活動が認められました

「国際ロータリー桑員地区 功労者として表彰」

ロータリー第二六三〇地区桑員分区分より文化部門で桑名市文化協会が「桑員地区功労者」の表彰を受けました。  
平成19年10月26日(金) ホテル

花水木にて表彰式が行われ加藤会長が出席しました。表彰状と記念品として置時計をいただきました。



### 桑名市文化協会のホームページをご利用ください

文化協会では、今年度ホームページをリニューアルしました。

ホームページでは、文化協会・所属団体の紹介や行事カレンダー、事務局への提出書類のダウンロードなど、会員の皆さんにご利用していただけるような工夫をしています。

行事カレンダーでは、文化協会の会員の展示会や演奏会などをご紹介しています。会員の活動紹介や、会員のホームページへのリンク等もできます。会員相互の情報交流・文化活動の情報発信の場となるようなホームページをめざしています。ホームページへの掲載希望やお問い合わせは、事務局まで。

ホームページアドレス

<http://bunkyo-kuwana.jp/>

★まだご覧になっていない方は、ぜひアクセスしてみてください。

# 新春懇親会

美術部門

深 貝 龍 舟

一月十九日(土) 桑名市文化協会の新春懇親会が六華苑横の「Rocca」で開催されました。昨年十一月のガーデンホテル・オリープの吉田敏男先生文化功労者表彰記念祝賀会の幹事として、文化協会の皆様方への返礼を兼ねて、初参加をさせて頂きました。

ご来賓(小津教育長、四日市市・菰野町・東員町の文化協会の代表)の地域文化活動に対する熱いおことばを頂き、主催者側の文化協会会長の加藤武夫氏が、昨年、市民会館が



アトラクションのフラダンス



着付け舞

開館したお礼の挨拶があり、又、改めて吉田敏男先生の紹介があり、和やかなうち、に会食となりました。間に、韓国民団の方々を紹介があり、韓国語と日本語を流暢にまじえて、いろいろ面白く挨拶をされて非常に楽しく懇親会が進みました。アトラクションの、着付け舞、フラダンスは、私の知らないところの文化の広さと華やかさを初めて拝見する機会を得て感動でした。これも日々の努力の上に成り立っていることが分かりました。今後は、桑名文協の中で美術部門の創作活動の高まりをもっともっと期待しております。

# 市民芸術文化祭を終えて

お稽古

芸能I部門

渡邊法子

リニューアルされた市民会館にて、昨年十一月に邦楽の集いが華やかに催されました。いつの時でも舞台となるにつれ緊張してしまいます。日頃の練習の成果を演奏するだけと思いつら。済んで控室へ戻るとよく揃ってたよと聞かされるとホッと胸をなでおろし又次の時迄お稽古を重ねるのです。

色々な所から慰問を頼まれ出かけますが、皆さんが手拍子をとったり歌を口ずさんだり楽しい一刻をすごして参ります。幸い三味線の他に大正琴、日舞、太鼓等日頃からお稽古を続けておりますので色々役立っており、よかったですと思う事があります。三味線は三本の糸で演奏できるなんてすてきですね、と言われます。どの楽器でも大勢で演奏する時は「間」を合わせるのが大事ですね。高齢社会となり退会する人が増え

て淋しい想いをする事もありますが、時の流れで止むを得ないと思います。

古来よりの文化を大切に伝承する事、そして次世代に伝えてゆく事だと、一日一日を大事に、撥をとりあげ又お扇子を持ちお稽古に入る日々でございます。何事も練習あるのみと想いつら。



## 百人一首競技かるた

趣味教養部門

加藤 誠

「みかさのやまにいでしつきかも」(♪)。読み手が朗々と百人一首の下句を詠みあげる。語尾(「かも」)が約3秒伸ばされ、空白の1秒後、次の歌「めぐりあひてみしやそれともわかぬまに」と上の句が詠まれる。



すると、その第一音（「め」）が聞こえたかどうかわからない間にかかるたの札が飛び、畳を叩く音が鳴り響く…。十一月十一日（日）に六華苑一の間をお借りし、市民芸術文化祭の事業として、三重県かるた協会会員による百人一首競技かるたの試合を一般の方に見学いただきました。

初めてご覧になる方は、一様にその速さと激しさに驚きの声をあげられます。上の句の最初の一、二音で取るその速さ。対戦者相互が詠まれた札を取るべく、札に向かって払いにいくその俊敏な動き、読まれた札とその周辺の札が一緒に飛ばされ、払う手が勢いそのまま畳を叩くその激しさ。

「まるでスポーツですね」と感想を述べられる方もみえます。確かに、競技かるたは、瞬発力、運動神経、集中心力全てが求められ、スポーツの要素が多分にあります。

一方、競技かるたは、万葉集から新古今の時代に詠まれた選りすぐりの百首の和歌を聞き、詠むということとで、日本の伝統文化を伝承しているという一面もあります。「百人一首の歌が詠まれるのを聞くと心が落着きます」という感想を述べられる方もみえます。このあたりは、今まで私たち競技かるた愛好者があまり

意識していなかったことですが、あらためて文化祭行事に参加していることの意義を考えますと、私たちの活動も、もっと幅を広げていく必要がありそうです。

## 文化協会創立十五周年記念事業 文化講演会

桑名市文化協会は、本年創立十五周年を記念して、平成二十年二月十日(日)に、桑名市民会館で文化講演会を開催しました。

歴史作家の童門冬二先生をお迎えして「松平定永と天保以降の桑名の文化」についてご講演いただきました。

実行委員 石垣 正司



市民会館の演壇の前に立たれた

童門さんは、とても八十歳を超えられたとは思えないほどエネルギッシュな方で、予定時間をめいっばい使い桑名の

今後は、競技かるたを楽しむだけでなく、日本の伝統文化の継承者としての気概をもって活動していきたいと思います。文化協会の皆様方のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

文化についてご講演頂きました。

桑名の文化の原点は、徳川家康の人質時代に培われた「やさしさ」にあります。家康はこの経験を異父弟松平定勝に伝えました。定勝は家康の教えを守り、弱い立場の人に優しくという文化を桑名に根付かせたということです。

こうしてこの家系に白河楽翁（松平定信）の血がはいっているわけです。

この人こそ、第八代将軍吉宗の孫で、幼少であった第十一代将軍徳川家斉の老中首座として寛政の改革を行った人であることは皆さんご存じのとおりです。

定信は、幕閣に入る前の白河藩主時代の天明の大飢饉に際し、苦しむ領民を救うため儉約に努め、領民救済措置を執りました。この政策により白河藩では餓死者が出なかったと言われています。

たします。

もつとも、寛政の改革についてはあまりにも厳しい儉約政策であったため、「白河の清きに魚の住みかねて、もとの濁りの田沼（ひしき）」とも揶揄されたそうです。

祖父吉宗は元禄時代を、そして定信は文化・文政時代のバブルがはじけた経済危機を立て直す役目を強いられました。バブルの時代は、「自分さえ良ければ良い」という風潮が生まれ、弱者が虐げられるそうです。そのため「弱者へのやさしさ」が改革者二人に要求され、楽翁はそれを桑名にも持ち込み、定勝が根付かせたその花を育んだのではないかと思います。最後に今回の童門さんの講演を通して、元禄時代、文化・文政時代を見ると、平成のバブルがはじけた今とは変わらないように感じます。

歴史は繰り返すのでしょうか？



# 桑名市文化功労者に選ばれました

桑名市では、学術・芸術などの文化の振興・発展に寄与し、その功績が顕著である個人や団体を文化功労者として表彰しています。19年度、文化協会会員の吉田敏男さんが受賞されました。これを記念して、吉田さんより寄稿いただきましたので紹介します。



吉田 敏男

この度、大変名誉な表彰を賜り身に余る光栄に存じます。私の絵画に対する情熱が、この様な形で評価されているのは夢にも思いませんでした。二十七年前に幾多の試練をこえて小さな芸術文化をと「ぐるうぶ雑創」を結成、創立。北勢地方に文化をと、好きな仲間がいる限り、ふまれてもふまれても雑草のように創り出していきこう、ぐるうぶの灯を消すな、こ

れを合言葉に会員の仲間達と頑張つて来ました。仲間の代表としてある表彰はすごくうれしく思います。私個人の表彰とは思っていません。芸術文化向上への思いは、人には負けない情熱があります。この表彰に感謝とお礼の意味を込めて、これからも絵画を通じて、すこしでも恩返しが出来たらと存じます。今後桑名市の文化向上発展に寄与し、後進の指導に精一杯努力していきたいと存じます。今後共、御指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 桑名市文化協会育成補助金の募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して補助金を交付します。つきましては申請される方を募集します。

### ◎補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、平成20年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍一年以上の会員。

### ◎補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

### ◎応募の方法

文化協会事務局(教育委員会文化課内)で申請書類を受け取り、同事務局へ申請する。

### ◎応募受付期間

平成20年3月11日(火)～4月11日(金)  
(平成20年4月1日～平成21年3月31日の実施事業分)

### ◎申請の制限

平成18年度・19年度に補助金を受けた会員は交付申請できない。

### ★お問い合わせ

桑名市文化協会事務局(桑名市教育委員会 文化課内)  
☎0594(24)1361

## 平成20年度 月釜・華道展日程表

と き 午前10時～午後3時30分  
と ころ 六華苑 月釜：離れ屋 華道展：番蔵棟  
前売券 700円 500円 (入苑料別)

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成20年 4月12日(土)	裏千家	勅使河原和風会 いけばな池坊
5月18日(日)	煎茶松風流	草月流
7月20日(日)	表千家流	MOA山月光輪花
8月10日(日)	遠州流 納涼茶会 市民会館和室(500円) 午後2時～午後7時30分	華道展はありません
9月21日(日)	松尾流	小原流
10月19日(日)	遠州流	池坊
平成21年 1月18日(日)	表千家流	華道展はありません
2月15日(日)	裏千家	竹真流
3月15日(日)	松尾流	石田流 未生流中山文甫会



平成20年1月華道展の様子



短歌

一楓・山城顕彰短歌  
小・中学生短歌部門

金雀枝短歌社

岩花 キミ代

プール開き一番乗りはほくたちだ  
キラキラの水塩素のにおい

大成 加藤 佑基

自分がねしゃぼん玉にうつつたよ  
それがわかれると少しかなしい

城南 三嶋 尚武

初めてのツバメの巣ができ玄関に  
ピチピチにぎやか家族が増えた

桑部 笠井 遥

母さんの代りに今日はがんばるぞ  
とっておきの激うまカレー

精義 斉藤 涼子

空の月私の後ろついてくる一人ぼっ  
ちはさみしいのかな

大成 伊藤 晴美

教室のあたしの席から見えている  
本だな越しの青い空が

城東 石田あずさ

ひまわりが太陽めざし団体で空を  
見あげてほほえんでいる

久米 石黒 由真

母の手をさわってみたらあたたか  
いはなしたくないその手をずつと

久米 江夏 愛恵

海草が波にゆられてゆうらゆら何  
だか海のお祭りみたい

久米 森下 慶紀

かまれてもしっこされてもふまれ  
てもいつもかわいなおれんちの犬

在良 佐野 颯俊

つゆ草の花の青さに目がさめたら  
ジオ体そう朝のひととき

多度中 野原 優花

「気をつけて行ってらっしゃい」  
「分かってる」分かってるけど

なぜか嬉しい 明正 小林 春菜

優しさが嘘に思えて怖いんだ心の  
傷は消せんケシゴム

成徳 服部美知奈

「また明日」明日が楽しみになる  
魔法「うんまた明日」笑顔で答え

て 正和 大橋美保子

大チャンス自分に打席がまわって  
きて一筋の汗ぼくの背中に

多度 平野 慎弥

風を切る俺の一打を受けてみるそ  
の一打こそ真の面打ち

正和 西垂水大志

外に出て羽のある虫ぞゆぞゆと叫  
んでにげる夏の暑い日

成徳 黒田 瑞希

バトンリレーバトンひとつつな  
がって四人の絆深まっていく

光風 石川 恵里

手をふればあの子もいっしょに手  
をふった入ってみたい鏡の向こう

光風 中村 綺更

君をまち校舎の影にたたずめば遥  
か彼方にしずむ夕やけ

光陵 菅谷 史織

誰もいないさみしい場所にも花は  
咲く話しかけても何もいわない

光陵 古田 真弓

蚊やり豚かすかに香を漂わせ風に  
棚引くひとすじの煙

長島 嶺川 葉

乗り遅れ向かいの電車で手を振れ  
ば中の乗客手を振り返す

陽和 尾崎 耕平

金雀枝会員短歌

曼珠沙華彼岸をすぎて赤々と墓地  
にも咲けり亡き娘と話す

伊藤千枝子

俄雨過ぎて日の照り金魚草の朱き  
小花のつややかに光る

伊藤 文子

一途なるものへ心の寄りてゆくと  
とへば鳴きつぐ夜半の蟋蟀

岩花キミ代

蚊帳吊草の穂先ゆききのしじみ蝶  
見上げてごらん瑠璃いろの空

上原巳喜子

間伐をする孟宗にテープ巻きめぐ  
る竹林夕日の赤し

加藤 昇

揖斐長良河口のほとりフルートの  
美しき音色の潮にのり来る

窪田 靖子

この夏の暑さに長く影伸ばす梧桐  
ねぎらひ夕日のつつむ

小林三江子

大切な物なのだからとしまひ込み  
仕舞ひ込みたる場所を忘るる

近藤 良子

時季違はずカネタタキの音夕べ聞  
く親しき友に会ひたる心地

三田香代子

遠足の子ら高らかに声挙げてコス  
モスの咲く野の道をゆく

田中 流石

天に月地に虫の声天然の夜のたま  
ものに心耳を洗ふ

千種てい子

十日余り留守の間に萩の花おもお  
も垂れて月影深し

月井 和恵

かにかくに朝起きてけふすること  
のあるを幸としパソコンに向かふ

水谷貴美子

待つ人のあらねど辻にしばし佇つ  
少しいびつな月に照らされ

諸岡みよ子

# 「心の花」一一〇年 記念会開く

文学部門 松井 久雄

「心の花」は、創刊一一〇年の記念事業を開催することとなった。本年の七月五日(土)・六日(日)の両日、東京如水会館で記念会を開く。同時に記念号を発行する。

玉蜀黍の尖の雄花に列なしてくぐる蟻のぼりつめおり

ひしめきて蟻の登るはアブラムシアリマキだよと友の電話は

アブラムシと蟻との共生ときめきて聞いた気にする幼き日あり

図書館の相談係「アリマキ」をみつけれたり心のはずむ

寄り添いて光る粒々アリマキのつたわりてくる命のいぶき

スーパーの果物売り場にやんわりと林檎のむつは包まれており

海こえて豪州より来たりしかマンガとやら押しつ押しされつ

フィリピンのミンダナオ島のバナナたち戦いの日も生きのびてきし

## 俳句

### 俳句サークル あやめ会の一年

あやめ会 根来 毅

公民館俳句は結社の俳句会と違って、各自治体が地域文化振興の一環として、公民館を拠点として活動し、恐らく全国には何百何千とあると思われる。その内で我々あやめ会は今年で四十年の歴史を迎える事になり、きつと息の長い講座だと自負している。それは江戸時代以降の歴史、文化にはぐくまれた桑名の地に加えて、代々指導者がよく啓蒙してきた賜ではないか。

然し昨今俳句同好の人達の超高齢化と趣味の多様化等に加えて、公民館施設の受益者負担の要因もあってか、会員の減少傾向にあるのは心づらい限りだ。

桑名にはかの芭蕉の詠んだ

「明ほ乃やしら魚白き事一寸」

「冬牡丹千鳥よ雪のほととぎす」

「宮人よ我名をちらせ落葉川」

「うきわれをさびしがらせよ秋の寺」

を始め明治昭和の先達が詠んだ句碑が桑名市内に散見される。

その文芸としての俳句を、萎む事なくももっともと花開かせようではないか。

さて我々あやめ会は月一回の、例会とは別に吟行会を行った。

その折の特選並に高得点賞は

### 「花見吟行」分

花の宴老僧正座くずさざる

伊藤美代子

風の修羅光の浄土散る桜

伊藤 文郎

風神もその手休めて花の中

根来 毅

一陣の風に落花の渦走る

杉丸 君子

揺蕩て風が舵取る花筏

伊藤かおり

### 「秋の吟行」分

血涙の歴史を秘めて秋大河

伊藤ふさ子

輪中行く一揆遙けし豊の秋

根来 毅

ちちろ鳴く芭蕉旧跡風の中

立花 正厚

萩咲くや藩主自筆の芭蕉の碑

宮田 実

### 初句会は桑名シティホテルで

「特選並高得点賞」

大の字に空したがへて奴風

長谷川 宏

日の神の懐に入る天の風

伊藤 文郎

元日や老ふたりとて手をつかへ

三宅富美子

あらたまの未踏の月日畏れけり

佐野 芳子

初日の出地球自転を確と見て

杉丸 君子

### 「入選」は

初明り満かん飾の船並ぶ

徳山 久枝

元朝や微動だにせず木曾大河

早川 恵子

注連飾る一の鳥居の渡し跡

立花 正厚

大篝火の穂が櫓を舐め廻す

鵜飼みつる

年の暮下弦の月の牙え牙えと

清水 幸子

うしろ手に帯の位置決め初鏡

伊藤 かおり

山の雲遊びて流る樹氷林

水谷 武子

喜寿傘寿揃ひてあぐる初諷経

根来 和子

参道の老杉淑気放ちけり

梅原 幸吉

箸袋一つ加はり屠蘇を酌む

根来 毅

紅さして少し艶めく老の春

奥野 裕子

元朝の河口を照らす常夜燈

辻 文子

着飾りて岬で迎ふ初日の出

宮田 実

杉木立柏手ひびき淑気満つ

木村 晴雄

刻々と雲に瑞祥初日待つ

菊田 眞佐

万両や心満ちたる日の過ぎて

梶間 茂子



三世代歩みそれぞれ初詣

野中 博宣

薄曇る空を射抜けよ初日の矢

千田 稔征

柏手の響く境内初詣

谷貝 純子

お正月ハニカム彼を伴なるて

伊藤寿美子

伊勢湾を金色に染め初日の出

伊藤ふさ子

威儀正し昇殿したる初詣

堀田 綾子

# 川柳

## 古川柳雑感

くわな川柳会

木原 広志

桑名の名刹、照源寺近くに古川柳の研究者夏目さんのお住いがあった。そのことを後年知ったので残念乍ら私は夏目さんにはお会いしていない。

聞くところ関東、関西には戦前から古川柳を研究するグループがあり、柳多留の難解句を組上に上げ定期的に集会をもち、数百句に及ぶ作品を解明していたそうだ。情けないことに名古屋に研究会は存在しなかった。

明和二年（一七六五）柳多留初篇が刊行され、江戸時代に一六七篇まで続けられた。

一六七篇は高番、中番、下番句と

三つに分けられ、この内初篇から二十四篇は高番句と呼ばれ、選句(當時は点者)は初代川柳のもので高い評価を受け、江戸時代の庶民の生活を識る貴重な資料となっている。ところが中番、下番になるに従い、江戸市民の支持は得たものの、自ら

風狂句”と称して品格をおとし、狂句のレットルまで貼られた。大正から明治へ狂句百年の負債を返せと二人の巨頭が起ち、昭和初期、川柳の六大家によってこの運動は受け継がれた。

古川柳の貴重な文献が夏目さんの机上から消えたことは今思うと大変残念に思う。

寺本 三郎

過ぎし日へ戻れぬ今日をしかと生き

関心も不安も高い介護法

瀬古 博

なにかも偽装に見える昨日今日

梶 泰栄

年寄りをいじめる政治まっぴらだ

ひらがなでいまだ馴染めぬ新市名

川瀬 秋廣

再会の予感真っ赤な陽が沈む

山猿を防ぐ野菜が高くつき

水谷 真

畳替え妻もかえたい気持ちです

一円の重さ伝える領収書

伊藤 正則

ガイドレール傷あと消えぬ事故現場

誰にでも挨拶をして呆け始め

うなづきを味方と読んでいた誤算

清水 健吾  
体力の続く限りは怠けたい  
案山子にも責任もってもらう秋

森 繁生

雪しきり介護に夜も昼もなく  
花時計貴方の夢の時刻む

木原 広志

千の風になって姑まだ見張り  
慰謝料がないから今の妻で耐え

## 現代詩

### モンマルトルの丘

現代詩やまぶき

安田 治三

獲物を捕らえて離さない眼差し

長髪と髭の男のパートナーは

キャンパスの四角い顔と

太い細いのイーゼルの足

魂や命をすばやく映し取る

コンテは指のようにしなつて

キャンパスを 滑ってゆく

鉛色の空の下

足元では鳩が餌をついばんで

名もない画家の

薄汚れたポケットからは

見慣れないパン袋が口を開け

家族のいない一人身と

物言わぬパートナーは

今日も夕暮れまで過ごすだろう

セーヌの川やシャンゼリゼ

ベルサイユにコンコルド広場  
どれもこれも行き詰まり  
失望のあげく

パリを望んで終わりにしたいと  
丘を登れば

サクレクールに消え入る神父に  
誘われるように眼下に背を向けて

いつの間にか ろうそくの  
煙ただよう寺院の中

画家の見たものは  
硬い椅子に腰掛けた少女をひとり

まぶたを閉じて

白い指を組んで祈っていた  
ろうそくの灯りは左の頬を

透かすように照らしていた

低く響く神父の祈り

口マネスクの高い丸天井に  
吸い込まれ 男の魂は静寂と

荘厳の神の世界に包まれた

或る朝  
孤独の画家はアパルトマンに

射し込む降臨に  
少女の笑顔を見た

それからいつの日も  
モンマルトルの丘の上で陣を取り

旅人や世界中の人々を  
朝から晩まで描いている

通りの店先に

トリコロールの旗が  
「ボンジュール」と

今日も揺らいでいる

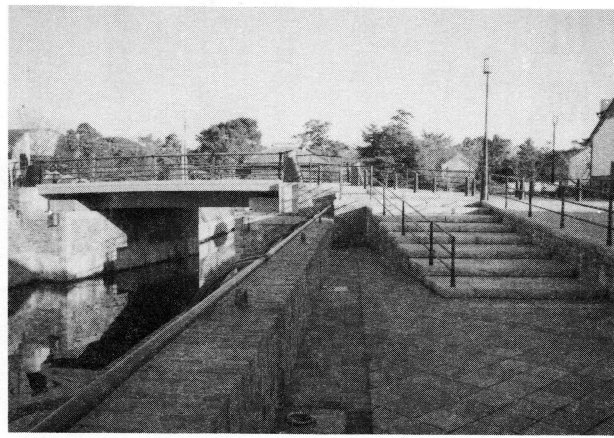
# 桑名ええとこ再発見

## 太一丸諸戸邸と惣堀

社会文化部門  
大河内 浩  
(個人会員)

太一丸は、伊勢神宮への御用材を繋留した場所であることから、その名が地名となつて来ました。ここに記録に残る庭園整備がされたのは貞享三年（一六八六）船馬町の桑名藩御用達商人山田彦左衛門良順で、庭園には汐入り池・杜若池・蘇鉄山を設け、藤茶屋・推敲亭・御成書院を配しました。

明治十八年（一八八五）に初代諸戸清六氏の所有するところとなり、以後、春御殿の建設をはじめ庭園の構築・整備を重ね、総面積八千坪を有するに至りました。庭園の池は揖斐川に通じており、園内より舟運にて伊勢湾を下り、富洲原別邸内の池へたどることもできました。燕子花の咲きそろう頃と紅葉の季節が絶品で、藤茶屋は戦災で焼失しましたが、推敲亭と御成書院は県指定文化財、庭園は国指定名勝となっております。残念ながら通常は非公開、近年春と秋に期間を定めて一般公開されています。



旧桑名城惣堀の運河より諸戸邸を望む

この諸戸邸（諸戸宗家・通称西諸戸）から南へ、寺町堀にかけては、もと桑名城総構えとなる惣堀で、平成十六年に修景事業が完成して「公共の色彩賞」も受賞した、平成の景勝地となっております。



### 桑名市文化協会会員募集中

桑名市文化協会では、会員を募集しています。市民芸術文化祭の部門祭や新春六華苑祭をはじめ、国際文化交流の推進など、文化活動を通じて心豊かな活気ある桑名のまちづくりに寄与することを目的に活動しております。ぜひ、一緒に活動しませんか。個人会員も大歓迎です。桑名市文化協会については、ホームページに活動団体や文化協会規約等を紹介しております。入会するには、事務局（教育委員会文化課内）にある入会申込書に必要事項を記入し、ご提出ください。理事会の承認を得て入会となります。

### 第16回総会のご案内

日時 平成20年5月10日(土)  
午前10時から  
（受付午前9時30分から）  
会場 桑名市大山田  
コミュニティプラザ中会議室  
☆各部門から代議員の選出をしていただきます。詳しくは、各部門長から連絡します。

ご賛助いただいたいております  
特別会員の皆様（五十音順）  
茶道具 山水園 様  
有限会社 茶 茂 様  
日頃のご協力に対しまして、深くお礼申し上げます。

### 平成19年度新入会員

(9月～2月)  
○金田枝里香バレエ教室(バレエ)  
代表 金田枝里香  
○鼓藤会(囃子)  
代表 望月太喜子

### 編集後記

桑名市文化協会創立十五周年を記念して童門冬二氏の文化講演会が行われ、古い桑名の歴史を拝聴することができました。松平定永は、もともと水と緑に恵まれた桑名の地に赴き、桑名に生活する民衆の心に助け合いの精神を育み、善政を敷いたとうかがいました。今の桑名にも水と緑はもちろん、その精神が受け継がれてきているのを実感しました。私たちも文化活動を通じて、さらによりよい桑名の発展に貢献していきたいと思えます。  
(荒尾)

広報担当副会長	森 一蔵
委員	文学部門 木原 広志
	美術部門 深貝 龍舟
	音楽部門 荒尾 尚美
	芸能I部門 渡邊 法子
	芸能II部門 伊藤 晶
	芸能III部門 坂 晶子
	演劇部門 今枝 由佳
	社会文化部門 大河内 浩
	茶華香道部門 丹羽 宗俊
	趣味教養部門 加藤 誠